

## ◇ 平成 22 年度鹿沼東地域包括支援センター事業報告

平成 22 年度の鹿沼東地域包括支援センターの事業報告を、活動実績（数値等）参照しながら報告いたします。（月別活動実績の数値は別表にて）

### 1. 総合相談支援業務

(ア) 相談延件数 798 件（月平均 67 件） [昨年 864 件（月平均 72 件）]  
 内訪問件数 450 件（月平均 38 件） [昨年 407 件（月平均 34 件）]

※昨年と比較して、若干減少している。しかし、後述のケアマネからの相談件数が約 100 件増加していることから、相談件数全体では約 40 件程度増加している。訪問による活動は年々増加しており、訪問活動の活発さが窺える。

#### (イ) 相談経路

①家族・親族	②病院・MSW	③本人	③民生委員	⑤近隣
348 件	89 件	87 件	87 件	37 件

昨年は、①家族親族 292 件、②民生委員 110 件、③本人 107 件、④病院・MSW 96 件、⑤ケアマネ 48 件の順となる。

※家族・親族が圧倒的に多いが、近隣等、地域の関係者からの相談も多くなっており、地域住民に「地域包括支援センター」の存在が認知されてきていることがわかる。

#### (ウ) 認定状況

未申請が 332 件、申請中が 230 件と、昨年同様生活上の相談、または介護保険制度等制度上の相談、介護に関する新規相談が多い。特に新規申請で暫定によるプランニングや利用調整が 3 年連続で増加している。

#### (エ) 相談内容

①マネジメント関係	②サービス利用調整	③暫定プラン	④医療に関すること
280 件	198 件	154 件	125 件
⑤安否確認	⑥虐待・介護放棄	⑦介護負担	⑧難病
113 件	84 件	76 件	64 件

昨年は、①マネジメント関係 340 件、②医療に関すること 166 件、③サービス利用調整 143 件、④暫定プラン 128 件、⑤問題行動 123 件の順となる。

※昨年同様新規の介護に関する相談が多く、それに伴う医療との連携、難病（末期がんのターミナルケア等）、認定が下りるまでの暫定プランが多かった。要介護に認定後、さつき荘在宅介護支援センター（居宅）につないでいるが、ケース数が多く、他事業所に回さざるを得ないケースもあった。虐待や権利擁護に関する相談も相変わらず多い。

#### (オ) 実態調査

新規ケース 82 件（月平均 7 件）

※昨年新規実績 86 件とほぼ同数で推移している。飛び込みによる調査はなく、何らかの相談を受けての実調が大半である。

## 2. 介護予防ケアマネジメント業務

### A) 要支援 1,2 利用者のケアマネジメント実績

直接担当 1,034 ケース(月平均 86 ケース) [昨年 938 ケース(月平均 78 ケース)]

委託 928 ケース(月平均 77 ケース) [昨年 1,064 ケース(月平均 89 ケース)]

※要支援 1 または 2 の認定を受け、介護サービスを利用する高齢者の全体数はわずかながら減少している。しかし、さつき荘居宅のケアマネ数減少の影響もあり、直接担当しているケース数は大幅に増加している。特に他の地域包括と比較してもその数は非常に多く、職員を 1 人増やしていただいたが、それでも業務が過密になっている。委託できたとしても、委託によるケアプランチェック等の管理業務が、本来の業務を圧迫している現状がある。

参考) 介護予防ケースの訪問実績 1,165 件(月平均 97 件)

[昨年 1,095 件(月平均 91 件)]

### B) 特定高齢者、介護予防一般高齢者支援業務

特定高齢者数 49 名(内介護予防プラン作成数 28 名)

他、特定高齢者候補者介護予防プラン作成数 2 名

#### ①通所型介護予防事業

【介護予防教室】 市内 10 会場にて、延べ 1,280 人の参加

内、東部台コミセン、市民情報センターを担当し、延べ 270 名の参加があった。(まちなか交流プラザ、トレーニングセンターは担当ではないが、担当地区の利用者が一部参加していた。)

また、北犬飼コミセンを会場に、昨年度実施の介護予防教室を継続し、「元気アップくらぶ」として、18 回開催、延べ 91 人の参加があった。

他、西茂呂ふれあいサロン利用者、緑町ふれあいサロン利用者、ほっとホームさかえ利用者を対象に介護予防教室等を各 1 回ずつ実施し、延べ 46 名の参加があった。

#### ②訪問型介護予防事業

通所を希望しない特定高齢者の中で、閉じこもり、認知症、うつ等の恐れのある方に対して、居宅を訪問することによる支援を行った。

訪問型介護予防事業プラン作成者数 4 名

介護予防啓発訪問指導 51 件

## 3. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

### イ) ケアマネージャーからの相談実績

相談延件数 316 件(月平均 26 件) [昨年 213 件(月平均 18 件)]

内事業所や自宅訪問 174 件(月平均 15 件) [昨年 56 件(月平均 5 件)]

※昨年も増加であったが、今年度も昨年比約 1.5 倍の件数となっている。困難対応事例や虐待事例に関する相談内容が急増し、事業所訪問やケアマネと一緒に訪問活動を行うなど、積極的にこちらから出向いての相談が増えている。

□) 相談内容

①経済問題	②医療に関すること	③マネジメント関係	④虐待・介護放棄	⑤問題行動
81件	70件	69件	67件	53件

※困難事例に関してや医療との連携など、ケアマネジメント上の悩みが多いが、虐待や経済問題など、権利擁護関連の相談が主である。認知症による問題行動に関する相談も増加傾向にある。

八) 地域ケア会議の実施

開催延回数 35回（月平均3回） 参加者延人数 230人

※昨年実績の40回219人からほぼ同数の推移。昨年同様他の地域包括との比較では、圧倒的な開催回数、参加人数である。運営協議会でもこの実績についての評価が高い。運営協議会開催時、委員から、これからは困難事例のケア会議だけでなく、一歩踏み込んで地域の課題を関係者で議論し合うような、地域包括ケアを構築するためのケア会議も必要なのではないか、との意見も出された。